

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目 次	Pages
➤ 事務局活動報告	1
➤ 研究・事例の紹介	5
➤ 会員寄稿記事	8
➤ 会議・イベント案内	9
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	9
➤ 会員募集中	10

巻頭書記

先月は、JRRN が事務局を担う「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の年次フォーラム及び運営会議が韓国ソウル市にて開催され、ARRN 事務局業務に翻弄された一ヶ月間でした。一方で、先月 1 ヶ月間で新たに 20 名もの JRRN 個人会員の方々にご入会頂き、事務局として嬉しい限りです。

本号では、9 月に開催された ARRN 国際フォーラ

ム及び ARRN 運営会議の概要報告に加え、8 月に訪問した韓国・水原における河川再生事例、また寄稿記事として「水辺からのメッセージ No.5」をご紹介します。

今後も、国内外の積極的な情報共有と人材交流を目指して参りますので、引き続き、JRRN 会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

事務局活動報告(1)

「第 6 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」開催報告(韓国・ソウル市)

2009 年 9 月 29 日(火)に、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」主催で『第 6 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』が韓国・ソウル市にて開催されました。

本フォーラムは、第 1 回から第 4 回までを東京で、また昨年の第 5 回は中国・北京市で開催しています。

本年の国際フォーラムは、韓国建設技術研究院(KICT)主催の『第 5 回 KICT 河川環境国際ワークショップ』と併催で行われ、韓国国内の関係者に ARRN の PR と河川環境分野の情報・意見交換を行うことができました。



歓迎挨拶の様子 (ARRN 玉井信行会長)

以下では、本フォーラムのプログラム、及び各講師講演の概要をご紹介します。

■ 第6回国際フォーラムのプログラム

第6回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム

- 日時：平成21年9月29日（火）15:00～18:00
- 会場：KOFST International Convention Center（韓国・ソウル市）
- 主催：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）、韓国建設技術研究院（KICT）、韓国河川協会（KRA）
- 共催：韓国河川再生ネットワーク（KRRN）、日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）、中国河川再生ネットワーク（CRRN）

<プログラム>

15:00-15:30

- ・開会挨拶 Samhee Lee (KICT 副院長)
- ・歓迎挨拶 玉井 信行 (ARRN 会長)
- ・歓迎挨拶 Kook IL Kim (韓国河川協会会長)

15:30-18:00

■講演1：白川直樹(筑波大学講師)

「川に流れを取り戻す ～日本における過去・現在・未来」

■講演2：Dongya Sun (CRRN 事務局長、中国水利水電科学研究所 IWHR)

「中国における河川再生の最新の取り組み」

■講演3：Marco Baumann (Canton Thurgau、スイス)

「河川工学と管理 ～スイスにおける事例から」

■講演4：Hong Koo Yeo (韓国建設技術研究院 KICT)

「韓国4大河川再生事業の基本計画について」

■ 講演1：「川に流れを取り戻す ～日本における過去・現在・未来」（白川直樹・筑波大学講師）

はじめに日本の河川再生に向けた取り組みの概要として、河川法改正の歴史とその社会背景、また河川再生の分類や最近の再生事業について説明がありました。

続いて、日本における河川流量をめぐる上下流問題の具体事例の紹介の後、河川の正常な流量を維持するための基本的な考え方とこれまでの取り組み、また今後さらに期待される研究や河川環境の価値の評価の話題など、河川流量の再生に向けた意義ある話題を紹介頂きました。



白川直樹講師の講演の様子

■ 講演2：「中国における河川再生の最新の取り組み」（Dongya Sun・中国水利水電科学研究所）

冒頭で現在中国が抱える河川・水環境の課題について写真を中心に紹介され、その課題を克服するための中国政府による河川環境再生に関連した法制度や施策、及びそれら取り組みによる水環境改善効果についての統計的なデータについて説明がありました。

次に、中国における河川再生の考え方と技術、また河川の健全性の評価方法などの話題が紹介されました。

最後に、中国における事例紹介として、湖沼の水質改善事例や河川再生の具体事例情報を写真と共に紹介頂きました。



Dongya Sun 講師の講演の様子

■ **講演3：「河川工学と管理 ～スイスにおける事例から」** (Marco Baumann・スイス Canton Thurgau)

1800年代から現在までのスイスにおける洪水被害の歴史の説明から始まり、河川工学と河川管理の従来の考え方に対する問題提起が冒頭でなされました。続いて、現在のスイスにおける洪水管理の方針について、環境保護や社会経済との両立の観点から詳しい説明がなされました。

次に、2007年8月にスイスを襲った災害の概要及びそこから得られた教訓が紹介され、スイスの河川管理の基本的な考え方として、川に空間を与え、また十分な水質と水量を確保するための河道の設定方法についてご紹介頂きました。



Marco Baumann 講師の講演の様子

■ **講演4：「韓国4大河川再生事業の基本計画について」** (Hong Koo Yeo・韓国建設技術研究院)

はじめに韓国国土海洋部（日本における国土交通省）による進められている韓国4大河川再生事業について、韓国における気候変動の影響、また経済的発展を優先し過ぎた中での水環境悪化の状況や河川空間の喪失などの具体事例を紹介しながら、その事業に至る背景について詳しく説明が行われました。

続いては、四大河川再生事業の目的として、「洪水防御」「水資源確保」「水質と生態系の再生」「川を軸とした地域の発展」「地域住民主体の水辺空間づくり」の5つが紹介され、事業の全体計画について詳

しく説明が行われました。

講演の後半部では、事業全体の事業費とその効果に関する比較検討の結果、また事業により再生された未来の河川の様子がイメージ図と共に紹介されました。



Hong Koo Yeo 講師の講演の様子

フォーラム全体を通じ、各国の河川再生に関わる考え方や技術の特徴の違いも理解でき、またネットワークを通じた相互の情報共有の大切さについても改めて認識することができました。



フォーラム終了後の記念撮影（講師及び運営事務局）

なお、本フォーラムの各講演資料は以下のホームページよりダウンロードできます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/1577.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

事務局活動報告(2)

「第4回 ARRN 運営会議」開催報告(韓国・ソウル市)

2009年9月30日(水)、韓国・ソウル市にてアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第4回運営会議」を開催しました。

はじめに、ARRN 及び JRRN、KRRN、CRRN の活動について、各事務局より第3回運営会議から現在までの報告を行い、続いて玉井会長を座長に、審議及び意見交換を行いました。

審議及び意見交換としては、次年度の国際フォーラムの開催内容や、河川再生ガイドラインのバージョンアップの方針を中心とした2010年までの活動計画、また次期会長及び事務局等のARRNの組織体制等の審議を行いました。今回は、前日に開催された第6回国際フォーラムのゲスト講演者であったDr.Baumann(スイス)もオブザーバーとして参加して、貴重な外部視点の意見を頂きました。

時間等の関係上、やむなく決議に至らなかった審議事項についてはARRN事務局が中心となり審議を継続していきます。

会議の概要はJRRNウェブサイトに掲載しておりますので併せてご覧ください。



運営会議の様子



運営会議後の集合写真

URL : <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/1581.html>

<参加者>

(ARRN)

玉井信行(金沢学院大学、ARRN 会長)
佐合純造(財団法人リバーフロント整備センター、ARRN 事務局長)

(KRRN: 韓国河川再生ネットワーク)

Chan Wan KIM (KICT 韓国建設技術研究院、KRRN 事務局長)、JeongSeok YANG (国民大学、KRRN 情報委員)

(CRRN: 中国河川再生ネットワーク)

Dongya SUN (IWHR 中国水利水電科学研究所、CRRN 事務局長)、Dongsheng WANG (IWHR 中国水利水電科学研究所、CRRN 情報委員代理)、Fang WANG (IWHR 中国水利水電科学研究所、CRRN 技術委員代理)

(JRRN: 日本河川・流域再生ネットワーク)

佐合純造(財団法人リバーフロント整備センター、JRRN 事務局長)、伊藤一正(財団法人リバーフロント整備センター・株式会社建設技術研究所、JRRN 情報委員)、白川直樹(筑波大学、JRRN 技術委員)

(オブザーバー)

Kooil KIM (韓国河川協会会長)、Hyoseop WOO (KICT 韓国建設技術研究院)、Hong Koo YEO (KICT 韓国建設技術研究院)、Jing ZHANG (IWHR 中国水利水電科学研究所)、Marco Baumann (Canton Thurgau、スイス)

(ARRN/JRRN 事務局)

沼田彩友美、和田彰

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

研究・事例の紹介

韓国・水原川(スウォンチョン)からの報告～市民が守り続ける川の遺産

韓国での川の復元事例と言うと、ソウル市の清溪川が知られていますが、実はそれ以前に暗渠化した川を復元している事例があります。ソウル市から約35km 南に位置する水原市は、李氏朝鮮時代の城塞遺跡「華城」のある歴史文化都市で、1997年に「華城」はユネスコの世界文化遺産に登録されました。水原市内には4つの河川が流れており、その中で、華城内を流れる唯一の川が水原川です。この水原川が、市民の力で川の覆蓋を撤去した河川で、韓国の多自然(型)川づくりの先がけ事例とされています。

1970年代、水原川は水質悪化による悪臭が問題視されたため、川の暗渠化が計画され、覆蓋工事が進められることになります。しかし、1990年代、水原川の暗渠化中止と復元を願う市民の声が高まり、華城が世界文化遺産に登録されたことも一つのきっかけとなって、川の覆蓋撤去が市に受け入れられまし

た。市民は世界文化遺産、そして水原の名に相応しい川にしようと立ち上がり、市と協力して知恵を出し合って、水原川を開渠し、自然区域の整備を行いました。1998年から7年間の工事を経て、華城を南北に縦断する交流の軸が復活しました。

水原川自体は世界文化遺産ではないのですが、川を愛する市民によってかつての水原川の姿を慕い、守り続けられている財産と言えるでしょう。工事後も市民団体による清掃活動や、水質・生物調査などが定期的に行われており、比較的良好な環境を保持しているようです。また、未着手区間の整備や、過去の洪水で消失した華城南側の水門の復元などの要請もあり、今後の展開が期待されます。

JRRN 事務局では、2009年8月18日(火)に水原川の現地視察を行いましたので、その様子をご報告します。



華城と水原川の位置図（番号は次頁以降に示す写真の撮影位置）



①上流側から華虹門を見る

水門上に建てられた楼閣は眺望が良く、風道となっているため、市民の憩いの場となっています。



②華虹門から下流を見る

華城から見る水原川のベストスポット。水門から溢れ出る水しぶきが心地良いです。



③下流側から華虹門を見る

華虹門と呼ばれるように、七つの水門から水が流れています。水の上に虹がかかることもあるとか。



④川辺で休む市民

ふと足を止めたくなる風景です。市民による清掃活動もあってか、生物も多様。



⑤自然と調和した川

川にかかる植生、多自然的な床止めが涼しげな様相を創出しています。



⑥自然区域中間点の橋から上流を見る

アクセス路が適度にあり、ウォーキングに最適です。



⑦自然区域中間点の橋から下流を見る

子供が川に入って遊んでいます。この橋を境に堤内地の様子も変わっています。



⑧歩道に設けられた休憩場

歩道のあちこちに、一休みできるようなちょっとした施設が設けられています。



⑨カモフラージュ？された排水口

垂れ幕の向こうには排水口があるため、悪臭の防除に効いているようです。韓国ならではのデザイン？



⑩川を向いた町並み

川と町が近いです。商店で飲食物を買って、そのまま川へ降りられると楽しいですね。



⑪自然に富んだ川の様相

河床材料も多様です。ワンドのような場所も。



⑫自然区域（覆蓋撤去区間）下流端

これより下流区間も今後整備に向かうよう市民が活動しています。

(JRRN 事務局 後藤勝洋)

会員寄稿記事

水辺からのメッセージ No.5

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

清涼感あふれる落水：
近代化遺産で全国初の国重要文化財、東北地方で最も古い上水道ダム



撮影：2009 年 8 月

◆50 年近くの間、秋田市民の水源地に

秋田市から北東に約 10km にある藤倉水源地は明治 44 年に完成し、秋田市内へ飲料水等を供給し続けました。昭和 48 年に取水は停止しましたが、平成 5 年に国の重要文化財「近代化遺産」に指定されました。

◆日本三大美堰堤として

重力式コンクリートの石張りダムで、高さ 16.3m、長さ 65.1m、中央部 29.7m が越流式の構造です。大分県「白水ダム」と愛知県「長篠堰堤余水吐」とともに「日本三大美堰堤」と称されています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内 (2009 年 10 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

特になし

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■第 7 回「川の自然再生」セミナー～持続可能な自然再生と地域連携

○日時：2009 年 10 月 1 日 (木) 13:00～17:15

○会場：発明会館 (虎ノ門)

○主催：(財) リバーフロント整備センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1402.html>

■下水道シンポジウム『循環のみち下水道』を支えるコミュニティ活動と環境教育のあり方

○日時：2009 年 10 月 6 日 (火) 13:30～16:30

○会場：科学技術館

○主催：下水道シンポジウム実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1437.html>

■ミツカン水の文化交流フォーラム 2009『アクアツアーリズム これからの観光資源と水文化』

○日時：2009 年 10 月 7 日 (水) 13:30～18:00

○会場：東京ウィメンズプラザ

○主催：ミツカン水の文化センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1414.html>

■琵琶湖外来魚駆除大会

○日時：2009 年 10 月 18 日 (日) 10:00～15:00

○会場：滋賀県草津市志那中湖岸緑地

○主催：琵琶湖を戻す会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/1570.html>

■第 137 回 河川文化を語る会『流域思考の都市再生 ― 緑の列島を流域ごとに暮らしなおす環境ビジョン』

○日時：2009 年 10 月 19 日 (月) 18:00～20:00

○会場：シェーンバッハ・サボー (砂防会館) 3F

○主催：(社) 日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1370.html>

■九頭竜川流域の多様性～つながりの保全・再生をめざして～

○日時：2009 年 10 月 30 日 (金) ～31 日 (土)

○会場：福井県立大学交流センター講堂 他

○主催：応用生態工学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1425.html>

■第 138 回 河川文化を語る会『近世大阪の水辺景観とその後の変貌』

○日時：2009 年 11 月 19 日 (木) 18:00～20:00

○会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター

○主催：(社) 日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1569.html>

■第 139 回 河川文化を語る会「一植物学者がみる河川」

○日時：2009 年 12 月 7 日 (月) 18:00～20:00

○会場：厚生会館 (全国土木建築健保)

○主催：(社) 日本河川協会

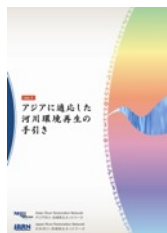
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1583.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1

・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)

・価格：無料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財) リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 川は生きている―川の文化と科学 (2009.6 発行)

・著者：森下 郁子 他

・出版社：ウェッジ

・発行年月：2009 年 6 月

・価格：1,470 円 (税込)

・ISBN：978-4863100510



科学の知見や日本の川づくりの長い歴史に基づき、日頃何気なく接している川と人、川と自然環境との深い関係について、一般向けに判り易く紹介しています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

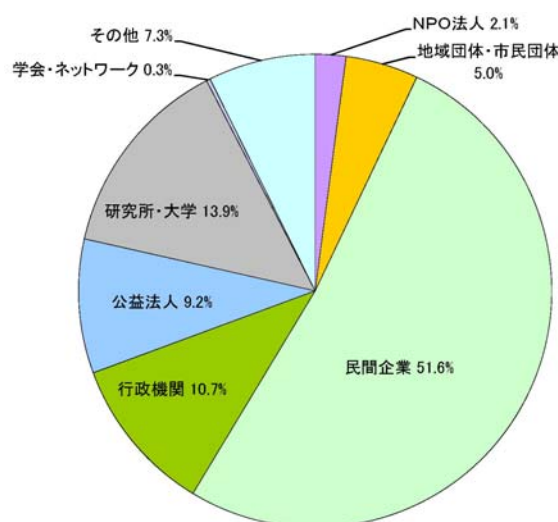
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することができます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2009 年 9 月 30 日時点の個人会員構成
(個人会員数：381 名、団体会員数：12 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

※2009 年 6 月 1 日より事務所が移転しました

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフテー中央ビル 7 階

Tel: 03-6228-3860 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>